

● 主な活動の記録

10月13～14日 森林ボランティアリーダー養成と交流の集い
「緑と水の森林基金」公募事業として、奈良県森林ボランティア
連絡協議会主催で吉野郡野迫川村で開催されました。

県下4団体から多数が参加、地元野迫川村森林組合並びに、
野迫川村林業研究会の方々のご指導とご協力の下、2日間有意
義な研修となった。

現地到着後、まず一週間後に行われる「きのこ祭り」のための
会場への遊歩道の草刈りとマツタケ・シメジの発生環境整備の
二手に分かれての作業を行った。夜は地元の方々と採れたての
きのこを食しながらの交流が大いに盛りあがった。

2日目は野迫川林業の現状と課題についての講義の後、活発の
質疑が行われた。続いて、アマゴの養殖場並びにきのこの原木
栽培場を見学。その後鶴姫公園・平維盛歴史の里を訪れて解散
した。(写真上から、講義—野迫川村林業の現状と課題・きのこ
発生環境整備作業・きのこの原木栽培場見学)

10月20日(土) 地獄谷国有林「ふれあいの森」—林内整備

今年度1回目となる、下草刈り、枝打ち、除伐作業を行った。昨年度一部手入をやったことも
あり、作業は順調に進んだ。作業前はかなり暗かった林内であったが、作業後は陽が入り、風
が通るようになり木々が元気を取戻したように感じられた。

作 業 風 景



10月24日(水) 奈良坂・奈保山—平城宮跡特別保存地区—林内整備

5年をかけての整備計画初年度で、今日は今年度最後となる3回目の整備作業を行った。激し
く繁茂していた竹も、作業の回を重ねてようやく見透しもよくなってきたが、あちこちに伐

採した竹が山積みとなってきた。隣接の元明天皇陵に被さっていたものも大方取除けた。

11月10～11日 第7回紀伊半島三県森林ボランティア交流大会

—緑の募金交付金事業—

行政主導でスタートした本大会も、三巡目となる今回は、企画・運営等すべてボランティアの手に委ねられた実行委員会によって、当県矢田山遊びの森を主会場として”豊かな里山の再生”をテーマに開催された。

和歌山県・三重県・奈良県の森林ボランティア約百名が子ども交流館に集い、県からは、北野農林部次長をはじめ多数のご来賓の列席の下、開会式。森の名手・名人杉本充氏の記念講演。50年強に亘る森林での数々の貴重な体験をお話し頂き、活発な質疑の後、場所を間伐作業地に移し、杉本氏の軽子を使った軽快で見事な木登りによる種採り実演に見とれた。

続いて全参加者が6班に分かれて各指導者の下、ヒノキの間伐実習を行った。最後に各県3本づつのヤマザクラの記念植樹を駐車場。

夜は宿泊施設の生駒山麓公園ふれあいセンターで、夕食・交流会で大いに盛り上がりお互いの一層の交流を深めた。

2日目は水上池周辺で日本野鳥の会奈良支部の方々を講師に野鳥の話・観察。そして平城宮跡の遺構展示館、大極殿、資料館を順じボランティアガイドの案内で見学。

昼食時特別イベントとして、「森づくり三重」の服部さんによる自作・自演の紙芝居”森と共に生きる”を楽しんだ後、閉会式。次回開催予定の和歌山県への横断幕の引継ぎ、挨拶で全ての日程を終了。来年の再会を約し各自家路に着いた。

杉本名人の記念講演



集合写真



間伐風景



野鳥観察



平城宮跡見学



紙芝居



11月17日(土) 高取山共生の森整備・保全事業一緑の中央事業

ENEOSの社員、子どもを含む家族60名弱の多くを迎えての活動となった。子どもとその親が小枝クラフトで思い思いの作品づくりを楽しんでいる間、他は全員森の整備・保全作業に励んだ。

回を重ねる毎に整備も進み、前方彼方の吉野の山々が遠望出来るようになってきた。
 午後は次回からの活動が安全に出来るよう当クラブ員のみで、危険な枯損木の処理を行った。

小枝クラフト



作品を手に手に



林内作業風景



11月24日(土) 定例活動一矢田山遊びの森

午前中は森の収穫祭の一環としての芋煮会の準備、柿採りと平行して、万葉の森づくりのための荒れ放題の放置田での草刈り、雑木の処理等下拵え作業を行った。芋煮汁を味わった後、午後からは炭窯の窯出し、袋詰め、干し柿づくり等。

一つ一つ丁寧に



上々の焼き上がり



12月16日(日) 奈良北高校一学校林整備

本年2回目となる活動、林業体験として、学生をはじめ先生・育夕会からの参加者も含め約50名が学校林の間伐・枝払い・枝打ち作業を行った後、周辺にコバノミツバツツジ、アジサイの植樹。続いて森の学習会で森林の働きと京都議定書を中心に学習のあとはミニ門松づくり。竹の斜め切りにはてこづるようで、竹ノコをもった会員の前には順番待ちが出来ていた。各自工夫をこらした作品を前にして笑顔がこぼれていた。

枝打ち作業



間伐研修



ミニ門松づくり



12月13日(木) 五位堂小学校一間伐体験学習一森林環境教育

県中部農林事務所主催により同校4年生を対象に二上山登山道入口付近の県有林で間伐実習が

行われ当クラブは指導者の派遣要請を受け参加。事前のクラスでの森林環境についての勉強会を行っており、作業の意義をよく理解した上での実習だけに、真剣に間伐に取組んだ。各約40名の2クラスが時間を置いてヒノキ林に入り、皆が順番に木を切りました。中には初めてノコギリを使う児童もあり、思うように動かぬ刃に苦戦しながらの作業ながら、終わった後は爽やかな笑みがこぼれていました。

たくさんもらった感想文の中から一部を紹介します。

「森林学習をして、木を切る向きや倒す方向などがあることや、間伐がなぜ必要なのかなどについて知った。そのおかげで、遠い存在だった森林を、少し身近に感じるようになった。また、いろいろ教えてもらうことで、今まで知らなかったことやわからなかった不思議がわかってきて、勉強するのが楽しくなってきた。これからも、身近なところにかくれているものをさがしていきたい。

山に入ると、空気がちょっと変わった。ノコギリを使うとき、おじさんが“中腰になるといい”とおしえてくれた。思ったよりも力があるし、途中でつかれるしたいへんだった。」

「木をノコギリで切るのは、見ていると簡単そうに見えたので、“かんたんやん”と思ってやってみると全然きれませんでした。するとおじさんがうまく切れる方法を教えてくださり、上手に切ることができました。

木が倒れると、雨水が頭の上にポタポタッと落ちてきました。切れたところを見ると、何重にも円がかいてあったので“この木は、長生きしてるんだ”と思いました。話も聞いて“森は、とても必要なんだ”と思いました。」

12月22日(土) 定例活動一山の忘年会一矢田山遊びの森

本年最後の定例活動日。生憎の雨天に拘わらず多数が参加。忘年会を兼ねての定例活動。昼食のための餅つき、シチューづくり、焼きそばづくりとまたまた一年間酷使した器具類の手入等それぞれ手分けして行った。

午後はミニ門松づくりや新年を迎えるのための周辺の整理・整頓等を行い、来年もまた元気でお互いが活動が出来るよう祈りつつ最後の挨拶で締めくくった。

餅づくり



チェーンソーの目立て



12月26日(水) 間伐研修(林研助成事業) 日笠町 的田・中尾林

本年最後の活動となるヒノキ林の間伐。的田林は43年生で27~28mのかなりの高さ。予め選木された搬出のための材の伐倒。25年生の中尾林では、間伐率を40%、20%、0%に分けてのモデル林づくりを行った。

